

令和4年度 現職・退職校長北足立南部支部教育推進協議会
草加市におけるスクールソーシャルワーカーの取組について
草加市教育委員会 スクールソーシャルワーカー 寺島 高志

1 はじめに 草加市における退職校長について

2 草加市におけるスクールソーシャルワーカーの取組について

(1) 平成22年 草加市教育委員会にスクールソーシャルワーカーを1名配置

平成23年 前任者の退任に伴い別の者が担当する。以降今日まで12年間勤めている

平成28年 スクールソーシャルワーカーを3人に増員

増員した成果 ①関係機関との連携がより深まった

②各校に分担集中する事で、各校での対応や関係が進んだ

③認知度が進んだ、民生委員や地域にも

令和2年 スクールソーシャルワーカーを市内中学校区に一人ずつ(11人)配置した。

埼玉県教育委員会(さいたま市を除く)の中で、早い全校配置

増員した成果 児童生徒一人一人及び保護者等によりきめ細かな対応が可能になった

(2) 職務内容(草加市の募集要項より一国が示すものと同じ)

- ・ 問題を抱える児童等が置かれた環境への働きかけ
- ・ 関係機関とのネットワークの構築、連携及び調整
- ・ 学校内におけるチーム体制の構築及び支援
- ・ 保護者、教職員等に対する支援、相談及び情報提供
- ・ 教職員等への研修活動

3 国がスクールソーシャルワーカー(SSW)活用事業を新規(20年度)に予算化した趣旨

いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など、児童生徒の問題行動等については、極めて憂慮すべき状況にあり、教育上の大きな課題である。こうした児童生徒の問題行動等の状況や背景には、児童生徒の心の問題とともに、家庭、友人関係、地域、学校等の児童生徒が置かれている環境の問題が複雑に絡み合っているものと考えられる。したがって、児童生徒が置かれている様々な環境に着目して働き掛けることができる人材や、学校内あるいは学校の枠を越えて、関係機関等との連携をより一層強化し、問題を抱える児童生徒の課題解決を図るためのコーディネーター的な存在が、教育現場において求められているところである。

このため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーを活用し、問題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒が置かれた環境へ働き

掛けたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど、多様な支援方法を用いて、課題解決への対応を図っていくこととする。

なお、スクールソーシャルワーカーの資質や経験に違いが見られること、児童生徒が置かれている環境が複雑で多岐にわたることなどから、必要に応じて、スクールソーシャルワーカーに対し適切な援助ができるスーパーバイザーを配置する。

4 事例

- (1) 長いこと児童相談所や支援センターからマークされながら解決されなかった
- (2) 小さい頃から問題がありながら、学校との信頼関係が築けず前に進めなかった
- (3) 母親が、常に子どもをそばにおいて、東北にも頻繁に連れていっていた
- (4) 教員として出会った希少な事例
- (5) 夫婦げんかが原因の事例

5 効果的な言葉かけ

- (1) 子育ての三つのあ 三つのゆ
- (2) 私たち大人が子どもにできる最高のプレゼントは
- (3) 絶対にいる2割以上の人 2-6-2の黄金律
- (4) 私は、絶対にあなただを嫌いになりません。大好きになるので、よいことをすれば褒めるし、悪いことをすれば叱るからよろしくね
- (5) 「願わくば、我に七難八苦を与えたまえ」と月に向かって祈った山中鹿之助の話
- (6) 日光陽明門の逆さ柱 (7) 忍者の最高技は精神(平心)
- (8) 草加市教育委員会「子どもたちの自己肯定感・自己有用感を育む」

6 おわりに

2021年10月、文部科学省が「2020年度に不登校と認定された小・中学生は19万人を超え、過去最多を記録した」と発表した。また、内閣府の2018年度調査の結果によると、全国の満40歳～満64歳までの人口の1.45%に当たる61.3万人が引きこもり状態にあると推計されている。

ここに含まれない世代を含めると100万人以上、国民の百人に一人以上が引きこもり状態であり、政治家はこのことを国会で取り上げないのだろうと報道されていた。

この瞬間も苦しんでいる多くの児童生徒のため、全力を尽くす覚悟である。